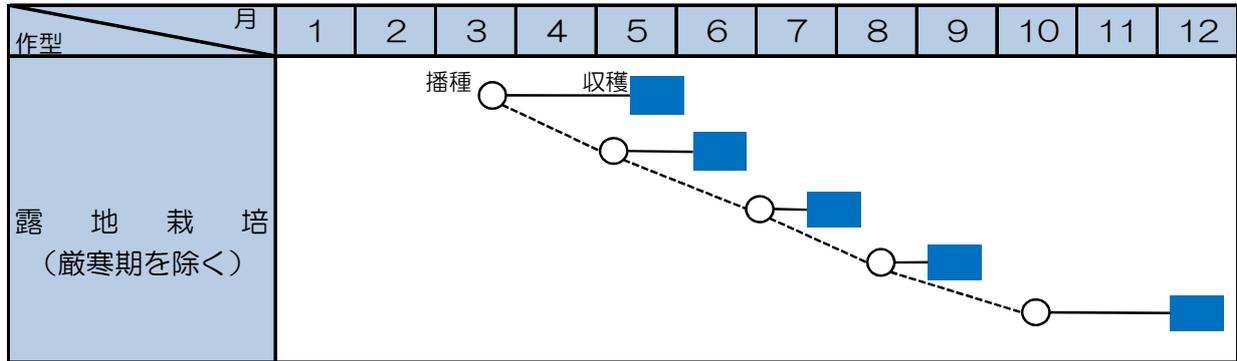


コマツナ (アブラナ科)

もともと東京でつくられていたツケナの一種。初夏～初秋には早生種、晩秋・早春には中晩生種を播く



1) 適地

生育適温は20℃前後ですが暑さや寒さに比較的強く、厳寒期を除いて露地で栽培できます。生育期間が短く、根張りも浅いため、土壌をあまり選びませんが、日当たりや排水がよく、地力の高い場所が最も適しています。

2) 品種

早生種（春～夏作）：おそめ、楽天、みすぎ（周年作可）

中生種（春～秋作）：黒みすぎ、せいせん7号（周年作可）

晩生種（秋冬作）：さおり、はるみ、ごせき晩生（周年作可）

3) 作り方

【圃場の準備】生育期間が短いため、施肥は基肥中心とします。播種1か月前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰100gを施用して耕耘します。播種3日前に高度化成肥料100g（ハウスでは60g）を施用し、幅130cmの畝を立てます。

【播種】条間20cmの4条で、深さ1～3cm程度の溝をつけます。種は厚播きにならないようにし、軽く土をかけて押さえます。

【間引き】子葉が開いて本葉が見えだした頃、株間3～4cmになるように間引きます。播種機を用いてあらかじめ数cmの株間にしている場合は、間引きを省略できます。

【管理】夏播きでは土が乾燥し、発芽や生育のむらが生じやすくなりますので、寒冷紗をトンネルがけします。一方、冬期は、畝の北側にこもやよしずの風よけを立てたり、不織布やビニールでトンネルをかけたりして防寒します。

【収穫】本葉5～6枚、草丈20～25cmになったら遅れないように収穫します。



ハウス栽培

4) 病虫害防除

高温期は寒冷紗をトンネル掛けすれば、虫害が軽減できます。アブラムシ類、ヨウトウムシ類、カブラハバチ、キスジノミハムシが多発するので、早めに防除します。